



わかば第237号

発行日

令和6年12月20日

編集

暁小学校新聞部

2学期は運動会や文化祭など、多くの学校行事や学年行事が行われる学期です。先月は第三十五回文化祭を開催し、多くの保護者の皆様にステージ発表をご覧いただきました。その後は、工夫を凝らした学年の催し物に多数ご参加いただき、文化祭を大いに盛り上げていただきました。子どもたちのこやかで満足げな表情がとても印象的でした。

文化祭を開催するまでに、子どもたちは三週間ほどステージ発表の練習や催し物の準備・制作に取り組みました。1・3・5年生の音楽発表、2年生の群読、4年生の英語発表、6年生の暗唱では、先生

学校行事で培われる力

校長 相馬 哲

方から教わったことを何度も繰り返し練習を重ねました。言葉を発するときのタイミングや速さ、強さなど細部にまで気を付け、言葉がうまく合わないときには仲間の声を意識しながら何度もやり直して仕上げました。また、催し物では、少しでも参加者に楽しんでもいただけるように、子どもたちがアイデアを出し合い、話し合い、その中からより良いものを選択し、みんなの力を合わせて創り上げました。

本校では、子どもたちが協同しながら一つのものを作り上げることに力点を置いて学校行事に取り組んでいます。何度も繰り返しより良いものに仕上げていく過程や、対話や選択からものを創り出す過程を通して、協調性やコミュニケーション力、粘り強さなど、テストでは測れない、いわゆる非認知能力が養われていきます。

す。そして、「創り上げていく」楽しさや喜び、「できた」という達成感には「自信」となり、次への「意欲」につながっていきます。

私たち教職員は、こうした子どもたちの姿を目指し、今後子どもたちが切磋琢磨し、達成感を味わえるような学校行事に取り組んでまいります。



第78回
暁小学校運動会
10/13

★
たのしいうんどうかい

一年 川せ あおば

小学校ではじめてのうんどうかいがありました。八十メートルそうはがんばったけど、五ばんでした。もつとはやくはしろうとおもったけど、あい手のほうがぼくよりももつとはやかったです。らい年は、一ばんになりたいなとおも



ました。

ダンスは、二きよくおどりました。ポケダンスの、ひとさしゆびを左右にふり、おしりをふるふりつけが、上手にできました。いしょうをきてポンポンをふっておどると、とてもたのしかったです。らいねんは、もつともつと上手におどって、一ねん生のお手ほんになりたいです。

★
うんどう会 大せいマラ

二年 堀田 らら

楽しみにしていたうんどう会。お顔も体もいっぱいつかって、かわいくてかっこいいダンスで、みんなにパワーをあげたいと思っておどってきました。れん習では、大きくはつきり動く。止める時は、ピ



タツと止める。のぼす時は、ピンピンにのぼす。一つ一つの動きをていねいにしてきました。

一年生とのれん習では、ダンスのいどうのいちを教えてあげました。すると、1年生の子が、「ありがとう」とニコッとわらってくれたので、うれしかったです。

いよいよ本番。ドキドキしていたけど、見ている人は、えがおいっぱい。それを見て、わたしは、とても

うれしくて、しあわせいっぱいにおどりました。うんどう会 だいせいこう。

★
がんばった運動会

三年 いとう みく

今日は、とっても楽しみにしていた運動会でした。夜も楽しみでなかなかねられませんでした。

運動会では、パパといっしょに親子きょうぎの「走って！とんで！グールグル」をしました。パパといきを合わせて、はたを回ったり、走ったりしました。列の人がとぶ時に、ぼ

うをひくくしないと、つまずいてしまう人がいるかもしれないので、むずしかったです。がんばったけれど、わたしのチームの青組は負けてしまいました。でも、パパとけっこうきょうう力し合えたのでよかったです。

それから、一番始めのときよう走もがんばりました。わたしは、自分よりせが高



い子と走ったので、練習の時はいつも六位で、あんまり運動会には出たくない気持ちもありました。でも、今日走ったら、目ひょうの五位がとれて、とってもうれしかったです。たくさん練習してよかったです。来年もがんばりたいです。

★
みんなでひとつに

四年 桑原煌弦

今日は、ずっと楽しみにしていた運動会でした。ぼくたち四年生は、三年生といっしょに「よさこいソーラン」をおどりました。



ぼくは、おどるときに、しっかりとこしを落として、力強くおどることと、全力を出し切ることを意識して練習していました。家でも練習していたので、きん肉つうになつて大変でした。三年生との練習では、三年生は初めての「よさこいソーラン」なので、ふりつかけをわかりやすく説明したり、しっかりとこしを落としておどったりすると、かつこよく見えることを伝えました。さい初はみんなこしを落とすのがむずかしかったけれど、練習を重ねるうちに、しっかりとおどれるようになり、とてもうれしかったです。

そして、むかえた運動会当日、たくさんの方が見に来てくれていました。太この前に立つと、とてもきんちようして、太この音よりも「ドキドキ」という自分の心ぞうの音の方が大きく感じました。深呼吸をして、大きな声で、

一生けん命走ったリレー

五年 堀内 蘭

今日は、待ちに待った運動会でした。五年生の学年競技は「全員リレー」です。練習中では、バトンパスが上手くいかなかったり、声かけがかからなかったりして大変でした。一人一人が一生けん命、本番を成功させようとがんばっていました。



「あかつきソーラン行くぞ。」とかけ声をかけてぼくらのえんぎが始まりました。三年生と四年生のみんなが一体となつておどった「よさこいソーラン」全力を出し切つて最高の思い出になりました。

運動会当日、私は第一走者でした。すごくきん張して、一回目フライングしてしまいました。二回目のスタートは第二走者の子に無事にバトンを渡せるように集中して全力で走りました。バトンパスが上手にできな

かったところもあったけれど、チームで力を合わせてがんばりました。この全員リレーを通して、チームのみんなと協力し合うことの大切さや、力を出しきった喜びをみんなと感ずることができてとてもうれしかったです。この経験を活かし、これからの学校生活で友達と一緒にいろいろなことに挑戦したり、乗り越えたりしていこうと思います。

最後の運動会

六年 成瀬 喜望

最後の運動会は、マーチングバンドの発表の日でもありました。マーチングバンドは、コロナのため休止していた、五年ぶりの再会でした。発表までには、大変なことがたくさんありました。練習期間約十ヵ月、直前に修学旅行があり、異例の暑さでした。運動会に間に合うのか、ずっと心配しながら練習を続けてきました。当日は、天気にも恵まれて、無事発表を終える

ことが出来てほっとしました。練習の時以上の力が出せたと思います。私が一年生の時に、マーチングバンドを見て、かっこいいなと思ったように、下級生が私たちのマーチングバンドをカッコいいと思ってくれていたら嬉しいです。

私は、審判の係になりました。競技が終わった人にも順位を札を渡し、旗まで誘導するのが仕事でした。しっかりと仕事に取り組んで、係の役目を果たすことができたと思います。

徒競走では、去年、一年と最下位でしたが、今年は三位になることができました。足の速い子と一緒に走るから無理と思わずに、あきらめずに頑張った結果だと思っています。

私のチームの青組は、優勝をのがしてしまい悔しかったですが、自分の力を全て出し切ることができたと思います。勝ち負け関係なく、楽しむことができた最後の運動会は、とても思い出に残るものになりました。

第35回

暁小学校文化祭

11/3

たのしかった文かさい

一年 すず木 まゆ

はじめての文かさいは、あさからきんちようして、むねがドキドキしていました。たのしい文かさいになりました。

ステージはつびようのけんばんハーモニカでひいた「アメijing・グレイス」は、パートがわかるところがむずかしかったけれど、



ほんばんはきれいなおとでえんそうすることができて、気もちがよかったです。

げきでは、セリフを上手にいうるかしんばいでしたが、うごきを大きくすること、げん気よくできました。おわたあと、みんなもえがおだったので、わたしもうれしかったです。

ぼくたちのおもちやランド

二年 なかじま そう

ぼくたち2年生は、わくわくおもちやランドをおこないました。多くの人がさんかしてくれたので大せいこうでした。

はじめにみんなでどんなおもちゃが楽しいかを考えて、色いろない見を出し合いました。ぼくたちは三人でかさぶくろケットをつくることにしました。かさぶくろケットは1か



ら20ポイント入ります。

20ポイントは一番むずかしくてぼうをたおさないともらえせん。おきやくさんに「おうえんはいりますか？」とぼくたちが聞いて「いります。」と言ったら大きな声で「がんばれ！がんばれ。」とおうえんをします。ゲームがおわるとはしのくじ引きができます。一本だけ当たりがあります。多くの人が来てくれてうれしかったです。

心を合わせたハーモニー

三年 山下 美桜

今年の三年生の文化祭の音楽発表は『カントリーロード』のリコーダー奏と『怪獣のバラード』の合唱でした。三年生から始めたりリコーダーは、指の動かし方がむずかしくて苦労しました。でも、きれいな音を出してみんなと合わせられるように、たくさん練習を重ねました。『怪獣のバラード』では、勇気を出して新しい一歩を進むような曲にふりつけをして、最後に「やあー」と手をあげる



ところが見どころでした。当日はたくさんのお客さん

で、とてもドキドキしました。でも曲が始まると、みんなと心を合わせて演奏したり歌ったりすることで自然と勇気がわいてきて、楽しく元気に発表できました。お客さんから大きな拍手をもらえて、むねがいっぱいになりました。

三年生のみんなと心をつにリコーダー奏や合唱ができて、とても心に残る文化祭の音楽発表になりました。

みんなで作った文化祭

四年 佐藤 彩緒依

私達四年生は、文化祭で英語げきをすることになりました。英語でげきをするなんて初めてなので、不安になりました。

私はナレーターをすることに決まりました。初めのころは、まちがえないようにすることばかりに気を取られていました。けれど、ナレーターでも気持ちよくめて読むことが大切だと気がつきました。みんなも、最初はぎこちなくセリフを



口にしていきましたが、練習を重ねていくうちに、スラとセリフが言えて、だんだん上手になっていきました。

衣しように着るころにな
ると、感じようがこもり、

役になりきって、いきいきとえんぎができるようになりました。きつとみんなも、私がナレーターをするうえで工夫したように、それぞれ努力したのだと思います。

本番の日は、たくさんのお客さんを前にしてとてもきんちょうしました。けれど、友達の顔を見て、いつも通りにがんばろうと思いました。たくさんのお客さんに楽しんでもらえたように、大きなはく手をもらえ

ました。

本番、成功したこともうれしかったですが、ふだんとはちがう、みんなのがんばるすがたを見て、心に残るすてきな文化祭となりました。

世界に一つだけの歌声

五年 前田 さくら

私達なら、うまくいく。初めての音楽会は、とてもきん張した。そのきん張は最近の中では、一番のきん張だった。しっかりと声が出るだろうか、アルトの声に引つ張られないだろうかと思ひ、私の心の中は不安でいっぱいだった。

いよいよ本番。体育館の中へ入る。一歩ずつ足を進め、ステージの上へとのぼる。前を見ると、みんなの家族が手を振っているのが見えた。その大勢の観客の中で、一番に目にとびこんできたのが、私のお父さんとお母さんだった。二人は私に向かって手を振りながら、写真をとっていた。

目の前では、指揮をする



先生が、ピアノをひく先生に合図をしている。いつも通りのピアノ伴奏が流れ始めた。わたしは、笑顔で歌い始めた。歌い始めた瞬間、きん張がなくなっていくのを感じた。となりからは友達の声。後ろからは、ピアノの音。そして、自分の声。それらすべてが合わさってとてもきれいな歌声のよう。な気がした。私達五年生でつくりあげた歌声。私達五年生にしか出せない、世界に一つだけの歌声だった。合唱が終わった。大きな拍手と、歌いきったという満足感が、私をつつんできた。

「個性を大切に」

六年 石川 由奈

私達にとって、小学校最後の文化祭でした。

ステージ発表では、暗唱発表をしました。暗唱発表では、短歌や漢詩、物語などを発表しました。最初は自分のクラスだけで自分た

ちのパートを練習したけれど、本番が近づくとつれ、学年合同で練習をする機会が多くなりました。クラスごとで読む速さが違い、ばらばらになったり、暗記でやろうとすると、自分の話すタイミングが分からず、発表が止まってしまったりすることがありました。当日まで、成功するよう何回も練習にはげみました。

そして、緊張しながら迎えた本番。私は、発表の前に学年代表でスピーチをする役目があり、マイクの前に立つと、大勢のお客さんたちが一斉に私の方を向きさらに緊張してしまいました。しかし、今までスピーチの練習をたくさんしてきた自分を信じ、やりとげる



ことができました。本番の暗唱は今までで一番よくでき、達成感があふれ出ました。

もよし物のコーナーでは、ゲームと工作のグループに分かれ、たくさんの人に楽しんでいただけるよう最高学年としての役割を果たすことができました。

閉会式では、児童だけではなく先生と一緒に『世界に一つだけの花』をふり付け付きで歌いました。歌には、「一人一人の個性をみがこう」というすてきな意味がこめられています。そんな一人一人の個性を発揮でき、思い出に残る文化祭になりました

毎日書き綴る生活日記

「あゆむすがた」

「あゆむす

がた」は本校児童の生活日記です。本校の子どもたちは入学した最初の日から卒業の日まで、平日のみならず、休日や長期休業中も含めて、毎日この「あゆむすがた」を綴ります。その中は、日々の出来事や思ったこと、感じたことなど様々です。

子どもたちは毎朝登校すると、宿題と共に「あゆむ

すがた」を学級担任に提出

することになっています。担任はその日のうちにこれを読み、コメントを書いて返却します。子どもたちは、担任教師からどんな返事が届くのかを楽しみにしており、返されると同時にペー

ジを開いています。入学したての一年生は絵日記の「あゆむすがた」から始めます。日々の学習等を通して文字や言葉を学び、

子どもたちは少しずつ文章

を綴り始めます。内容も徐々に深まり、学校や家庭での出来事、その中で思ったことなどが書かれるようになり、学年が上がる

と、社会情勢なども話題に上がり、自分の考えを文章化して述べることもできるようになります。一ページでは足りず、二ページ以上を使って書く子どもも出て

時には、子どもたちの迷

いや悩み事が素直な言葉で綴られることもあります。直接的な言葉で語られずとも、文章の端々や字の乱れからも、担任は子どもの様子を把握し、その時の思いに寄り添う手立ての一つにもなります。

さらに、この「あゆむすがた」には、子どもたちが宿題や翌日の持ち物を書いたり、保護者から担任への

依頼や相談事を記したりす

ることのできる「連絡帳」としての役割もあります。「あゆむすがた」は、小学校六年間続く、子どもたちの成長の記録であると共に、保護者と学校が手を携えて子どもたちの成長を見守る大切なツールでもあります。そして何より、子どもたちにとっては、一冊一冊が思い出の詰まった「宝物」なのです。

十月二十日	きんよう日・てんき	(はれ)	た	の	す	ご	ろ	く	を
き	よ	う	は	す	こ	や	の	し	か
う	の	お	は	な	し	す	ご	ろ	く
ろ	く	か	かん	せい	い	し	と	い	た
ま	し	た	は	い	ど	う	か	た	と
わ	た	し	は	い	ど	う	か	た	と
ふ	つ	か	い	は	い	ど	う	か	た
て	く	る	す	ご	ろ	く	を	ゆ	わ
つ	く	り	ま	し	か	た	を	ゆ	わ
ず	な	ち	や	ん	か	た	を	ゆ	わ

れんらく

認印

井島

1A いじま ゆあ

10月18日	金曜日・天気(雨)	今日、理科の授業で、月食の観察をしました。月食は、地球の周りを回っている地球が、太陽と月の間に挟まれている時に起こります。今日は、理科の授業で、月食の観察をしました。月食は、地球の周りを回っている地球が、太陽と月の間に挟まれている時に起こります。
今日の宿題	健康	学習時間
保護者・担任・通信欄	帰宅時刻	お手伝いした事

6A 稲垣 龍空

「言語技術教育」について

「言語技術 (language arts)」とは、事実や状況を正確に伝える力、自分の意見や意図を筋道立てて他人に伝える力、あるいは的確に要旨を述べて能率よく話を進める力の総称です。全ての学びの基礎となる技術であるとともに、国際社会を含む様々な場面で堂々と自己主張していく上でも、必須となるスキルであると考えられています。欧米諸国では、このような「言語技術」を育成するためのプログラムが「母語教育」として確立していますが、日本では未確立です。

本校では、二〇二二年度より、「言語技術」の育成を目指した授業「ことば」を開設しています。このプログラムでは、批判的思考（絵やテキストの分析）、論理的思考（多面的に物事を見る技術）、情報伝達（説明・描写・報告）などについて学びます。二年生から始まり、子どもの発達段階に合わせて、系統的にスパイラル方式で「型としての言語技術」を身につけていきます。



ことばのじゅぎょう
二年 小林 はな
わたしのすきなじゅぎょうは、ことばのじゅぎょうです。どうしてかというと、もんだうゲームなどいろいろ学ぶことができて楽しいからです。もんだうゲームでは、「あなたはりんごがすぎですか」や「あなたはきゅう食とおべん当のどちらがすぎですか」など、いろいろなしつもんがあります。わたしは、二つを聞かれると、どちらともすきなことがあるので、こたえをまようことがります。

これからは、もっとレベルの高いもんだうゲームをしてみたいです。

「ことばの授業」の導入

言語技術教育

書写教育

日本文化に親しみ、豊かな心の成長を

暁小学校
の
特色 2

暁小学校では、専門の講師の指導により、一年生から毛筆の学習に取り組んでいます。授業が始まると、教室は墨をする音だけが聞こえ、だんだんと墨の香りに包まれていきます。それと同時に児童の心構えも整ってきます。

本校の書写教育の目的は、単に綺麗な文字を書くことだけにあるのではなく、せん。実際に手を動かすことにより、造形感覚を養って、文字の形や線質を表現できるようにしています。そのため授業では、児童が様々な筆遊びで筆の感覚を養い、書写の技術を身に付けることができるように進めています。また、準備や後片づけを自分たちで行うことで児童の自立心を高めることもできます。

日本の伝統文化の一つである「書道」は、これからの国際社会を生きる児童にとってアイデンティティの一つと言えるでしょう。手先の技術だけでなく、伝統文化に親しむと同時に豊かな心を育んでいく本校ならではの書写教育を、今後とも進めて参ります。

習字の授業

三年 中山 ゆりあ
わたしは、習字が大好きです。なぜかというと、字が上手に書けるとうれしいからです。

習字の授業では、すみずりから始まります。すみずりから始まる時は、たくさんすってこくしように思っています。それから、先生がいつも、上手に書けることを教えてくださいます。たとえば、すみをつけすぎないようにして、筆を先から半紙に落として書くことです。そうすると、一番さいしよの入りがきれいになります。

これからも、きれいな字が書けるように、先生のアドバイスをしっかり聞いて練習をしていきたいと思ひます。これからも、がんばりたいです。



英語で自己表現する楽しさを 英語教育

「暁小学校の 英語教育」

暁小学校では、独自のカリキュラムを設定し、外国人教師と日本人教師のチームで授業を行っています。

低学年では、シヨリーフォニックスという指導法に基づき、英語の文字と音の関係を学習します。また英語絵本の音読に取り組み、英語を読む力や自分で読めるという自信を育てています。



前で発表したりする楽しさを学びます。先日の文化祭では、四年生が「桃太郎」の英語劇を披露し、大勢の人前でも堂々と英語で役を演じきる児童の姿が見られました。

高学年では、世界の様々な国の文化や習慣について理解を深める学習や、中学校を見据えて、文法知識を身につけ、英語の音読や作文にも取り組んでいます。繰り返し音読練習をすることで、綺麗な発音・イントネーションで英語を読む力がつき、語彙力や表現力を高める児童の姿が見られます。

どの授業においても、ペアやグループ活動の時間を設け、児童同士が関わり合い、学び合える時間を大切に行っています。

また、三年生以上は、独自の英語ノートを使用し、学習内容をまとめたり、英語を書く習慣作りをしたりするのに役立てています。

楽しい英語

三年 河内 怜禾

私は、毎回英語の授業を楽しみにしています。どうしてかというと、いつも先生が色々なゲームを考えてくれ、みんな楽しく英語を学べるからです。この間は、She is wearing a white shirt. など、着ている物を文で伝え、どのキャラクターの話をしているかあてるゲームをしました。英語の文を自分で作るのには難しかったけれど、友達に上手く伝わって嬉しかったです。

三年生になり、宿題もレベルアップしました。二年生の時の音読に加えて、今は書く宿題もあります。私は、先生のビデオを見て、毎回丁寧に宿題に取り組んでいます。そのせいか、書く力がついて、先生にほめられるようになりました。私は、英語をもっと話せるようになって、色々な国の子と友達になりたいです。だから、これからも英語の授業を頑張ります。

楽しくレベルアップ

五年 近藤 里花

暁小学校では、一年生から英語の授業を受けています。

一・二年生は、フォニックスやジェスチャーを使ってアルファベットひとつひとつの読み方を覚え、簡単な質問と答えも学びます。三年生になると、テキストを使ってもう少し難しい文を作り、基本的な会話ができるようになります。四年生は、劇にも挑戦し、文化祭で「MONOTARO」を発表します。五年生は、チェコの小学生と動画を送り合った

るようになって、色々な国の子と友達になりたいです。だから、これからも英語の授業を頑張ります。

り、海外にいる方とオンラインでつながったりして、国際交流をします。学年が上がるにつれてレベルが上がりませんが、難しくても、ゲームなどで何度も復習するので楽しく覚えられます。私は、英語の習いごととはしていませんが、英語の授業で英語に興味をもちました。これからも楽しく学習し、海外に行った時などに活かしていこうと思います。



アフタースクール・放課後学習会

暁小学校
の
特色

放課後の活動（令和6年度）

対象学年	名称、活動内容	実施曜日	場所
1年～6年	アフタースクール 午後6時まで（4時30分以降：暁クラブ）		
	放課後学習会 宿題・あゆむ姿・読書	月～金	図書室 特別教室1
	レプトン英語教室	火・木（1・2年）	グローバルルーム
		月・金（3年）	
		4,5,6年は選択制	
	クーバーサッカー教室	水（U9,U12）	体育館
	暁クラブ：4時30分以降 おやつタイム・遊びタイム 夕方学習会（e-ラーニング）	月～金	家庭科室、運動場、体育館 グローバルルーム

アフタースクール・放課後学習会 充実した放課後を

楽しいあかつきクラブ

一年 黒宮 葵

ぼくは、まいしゅう水よう日のあかつきクラブがたのしみです。



クーバーコーチング

四年 今井 有糸喜

ぼくはクーバーサッカーコーチングスクールに参加しています。

ぼくが、スクールに参加して一番楽しいことは、何と言っても試合です。ドリブルで相手ゴール前まで切り込み、シュートを決めることが出来たときは、最高に気持ちいいです。

クーバーのコーチは、ぼくが良いいプレイをする、「いいね！」と明るい声でほめてくれます。ぼくは、とってもうれしいうし、もっといいプレイをしようと思えてきます。これからも、クーバーサッカーコーチングスクールでサッカーを楽しみたいです。

放課後学習会

四年 山口 恭葵

僕は、毎週火曜日から金曜日まで放課後学習会に参加しています。

学習会は、火、木、金は四十分間、水曜日は四十分が2回行われます。帰りの会後、暁ホールに向かいます。受付で毎日変わる自分の席の番号を確かめて、着席します。学習会で僕は、宿題と歩む姿に取り組んでいます。分からないところがあれば、友達や先生に質問して解決します。時間が余れば、好きな本を読みます。学校で宿題を終わらせて、家ではゆっくりと過ごすことが出来ます。



楽しいレプトン教室

二年 市場 伊純

私は、火・木曜日にレプトン英語教室に参加しています。

レプトンは、じゅぎょうのあと、グローバルルームで受けます。へやに入ると、テキストを取って、席につきます。



自分のペースでテキストを見ながらコンピュターで声を聞いたり、テキストの問たいをします。テキストをよんで、文字を書くのはけっこう大へんです。テキストが四ページくらい終わったところで、先生にはつ音のチェックやまるつけをしてもらいます。8ページおわると、えい語のゲームができて楽しいです。もちろん、クラスのえい語の授業も楽しいです。これからも、楽しみながら頑張りたいです。

暁小学校には、遠足や運動会といった定番の行事以外にも、本校ならではの行事が多くあります。

硬筆や毛筆の競書大会、隔年で行う工作大会や写生大会では、時間をかけてじっくりと取り組みます。仕上げた作品は教室に掲示し、参観日や文化祭等で保護者の方々にもご覧いただいています。

遠足や大縄大会では、学年を越えた縦割りのグループを作り、協力して活動します。特に大縄大会では、高学年が低学年に縄の入り方を教え、一緒に跳んであげる微笑ましい姿が見られます。

また、総合学園である強みを生かし、暁幼稚園の年長組と五年生、年中組と四年生との交流会、六年生の暁中学校での授業や部活動体験など、校種の垣根を越えた行事も行われています。

このように本校では、多彩な学校行事を通して、子どもたちの心を豊かに育んでいきます。

笑顔があふれた林間学校

五年 森谷 美友

今日は、待ちにまつた林間学校でした。バスの中はとても盛り上がり、少年自然の家まであつと言う間に着きました。あいにくの雨でオリエンテーリングは出来ませんでした。体育館でバラバールンと折り返しリレーをしました。折り返しリレーは、二回やり、私達のチームは、一位と二位でとてもうれしかったです。その後は、運良く晴れてきたので、カヤックやキャンプファイヤーができました。カヤックでは、二人ペアで四十分ぐらいこぎました。下半身はずぶぬれになりましたが、カヤックで鬼ごっこをしたり、魚を発見したり、とても楽しかったです。その後、伊勢型紙もしました。途中、失敗してしまいました。友達が先生ののおかげで最後までやり切ることが出来ました。



二日目は、カレー作りをしました。私達は六人グループでしたが、二人お休みだったので四人で作ることになりました。野菜を二人で切った後、火おこし係のお手伝いでまきを持っていったりしました。ご飯は火おこし係の二人がたいてくれて、おこげもあり、おいしかったです。四人なので心配でしたが、先生にもおいしいと言ってもらえて満足です。

思い出に残る笑顔あふれる二日間になりました。

待ちに待った修学旅行

六年 小寺 紫月

私は、修学旅行をずっと前から楽しみにしていました。なぜなら授業で学んだことを友達と一緒に実際に見て学ぶことができるからです。



一日目は、奈良に行きました。私が一番楽しみにしていた奈良の大仏は思った以上に大きくて驚きました。座高は十六・二メートル、体重は五百トンもあるのです。今のような機械が発達していない時代なのに、この大きな大仏を作った技術がすごいなと改めて思いました。

二日目は京都、大阪に行きました。その中で一番印象に残っているのは世界遺産に登録されている二条城です。なぜなら、二の丸御殿の廊下を歩くとうぐいすの鳴き声のような音が鳴り、驚いたからです。また、豪華なふすま絵や彫刻などはすごく立派で美しく言葉が失いました。三日目は、USJに行きました。友達と計画を立てるときがすごく楽しくワクワクしていましたが、みんなで乗り物に乗ったり、ご飯を食べたりしてとても良い思い出になりました。三日間で友達との仲がより深まり、知識が増えました。とても楽しく充実した三日間になりました。

「林間学校」
「修学旅行」

学校行事

暁小学校
の
特色 5

図書館教育 読書の魅力をイベントで

◆読み聞かせを通して◆

暁小学校図書館では、児童が所属する図書委員会と、PTA図書委員による読み聞かせが行われています。

図書委員による読み聞かせは、主に昼休みに行われます。委員会の時間や休み時間に、絵本を中心に皆が楽しんでくれそうな本を選び、練習を重ねます。給食中の放送でお知らせをしたら、さあ、本番です。低学年の子や、図書委員と同じクラスの仲間など、さまざまな学年の児童が集まります。読み聞かせ中は、緊張して声が小さくなってしまうたり、上ずってしまったりすることもあります。聞いている子どもたちは、一様に目を輝かせ、時には笑い声が上がりにながら、息を呑みながら、お話の世界に浸っています。読み終えた後には自然に拍手が起こり、双方満足げな表情がとても印象的です。

中には、先ほどまで図書委員が座って読んでいた場所で読み聞かせの真似を始める児童も現れます。それは、読み聞かせによって与えられた喜びを、次は自分が与えてあげたい、という思いからに他ならないのだと思います。

本を介して、物語を介して、思いを与え与えられるのが読み聞かせです。その場に図書館がなっており、今後も続けていきたい暁小学校図書館の活動となっています。

